

私学の魂

関東学院中学校高等学校

男女共学・キリスト教・そして充実の学び 関東学院が誇る教育環境の中で大きく 成長した卒業生

ミッションスクールが多い横浜の中でも数少ない共学校である関東学院。

2008年からは、成績中位の者がGMARCHクラスの大学に現役合格できるよう全体の学力アップを意図したカリキュラムがスタート。いよいよこの春、新カリキュラムで6年間学んだ1期生が卒業した。

男女共学、キリスト教、そして充実した学びの環境の中で彼らが何を感じ、どのように成長していったのか、卒業生4名に話を聞いてみた。

--- どの大学に進学しましたか？また始まったばかりの大学生活はどうですか？

T.M君：早稲田大学の先進理工学部に進学しました。理系なので早速課題がたくさん出ており、思っていた以上に勉強がハードです。でもその合間を縫ってサークルに参加したり、アルバイトを始めたりして、とても充実した大学生活になっています。

Y.N君：麻布大学の獣医学部に進学しました。

専門性が強い学部なので、今のうちから選択科目を積極的に履修したり、上級生の解剖実習を見学したりと、勉強を中心に生活しています。

C.Mさん：慶應義塾大学の文学部です。私は文系なので大学から課されているものは理系の人に比べると多くありません。自分から考え行動していかないと時間をもてあましてしまいますが、社会人のテニスサークルに所属したり、アルバイトを始めたりして、良い大学生活のスタートが切れたと思います。

M.Yさん：立教大学の法学部に進学しました。うちの大学は英語の課題が多いと聞いていたのですが、想像していた以上に多く、かなりの時間を英語の勉強に費やしています。



Y.N君

関東学院の卒業生は
積極的に人間関係を築く力を持っている

--- 大学に入って、他の中高出身の友人もできたと思いますが、彼らと関東学院の卒業生を比較して違うなと感じる点がありますか？

Y.N君：関東学院の友達同士は、些細な話題でもみんなが乗ってきて盛り上がるのですが、それに比べると他校出身の人は大人しいなと感じることがあります。知り合って間もないからまだ打ち解けていない、という理由ではなく、友人との距離の置き方がそもそも違うのかも知れません。

M.Yさん：自分も含めて、関東学院出身の人たちは自分からどんどん働きかけて友達作りをする人が多いと思います。打ち解けるのも早く新しい人間関係にもすぐに適応した人が多いのではないかと思います。

T.M君：関東学院では知らない先生でもすれ違ったら挨拶するのは当たり前だったけど、今の環境ではそれがありません。僕が今までの習慣で大学の先生に挨拶すると、他の友人が「知り合いなの？」と不思議がられたりします。

C.Mさん：関東学院の人間関係を基準にすれば、他校出身の人は比較的受身の人が多いと思います。人から話しかけられるのを待っているタイプの人が多いのには少し驚きました。

共学校という環境の中で、男女が自然体で仲良くしながらお互いの違いを認め合い、尊重しあえるようになった

--- 関東学院は共学校ですが、別学の学校出身者と比較して、共学でよかったなと思う点がありますか？

T.M 君：男子校出身の人は、大学の実験でも変に女子がいるとモジモジして全然実験が進まないことがあります。共学出身からすると、せつかくの大学での勉強なのにちょっともったいないなと。

C.M さん：別学出身の友達は、変に壁を作る人がいたり、逆に仲良くなろうと頑張りすぎている人がいたり、異性ととの距離感の取り方を苦手になっている人が多いと思います。一方私たちは6年間クラブ活動を通していつも一緒に頑張ってきたから、男子も女子も自然体で、節度を保ちながら普通に友情を持つことができたので、それはとても良かったと思います。

M.Y さん：一緒に頑張ってきた中で、男子と女子がお互いの違いを認めあえるようになったのも共学校にいたからだと思います。たとえば文化祭や部活動で企画を考えたとき、男子が次々と新しいアイデアを出してくれる、その発想力とリーダーシップはすごいなと感心しました。



M.Y さん

Y.N 君：大風呂敷を広げてしまいがちな男子に対し、女子は細かいところに目が届いてしっかりフォローしてくれました。男子が出したアイデアをどう実現していくか、具体的な道筋を考えた実務レベルでリーダーシップを発揮してくれました。個人差はあるけれど、やはり男子ならではの視点、女子ならではの視点というのがあって、両方の良さを認め合えたのは共学校ならではの点だと思います。

聖書の言葉やキリスト教の教えは人生訓として、一人ひとりの中にしっかりと根付いている

--- 6年間キリスト教に触れてきたわけですが、キリスト教を通して何を学びましたか？またそれは今の生活にどのように活かされていますか？

M.Y さん：人を思いやるというか、相手の立場に立って物事を考えられるようになりました。自分のわがま

まを通そうとするより、よく話し合って相手も自分も納得できるような道を探す習慣が自然に身につきました。

Y.N 君：感謝する気持ちを、キリスト教を通して学びました。特に食べ物です。肉を食べるということは命をいただくということ。普通はなかなかそこまで考えることはないと思いますが、食事の前に感謝のお祈りをするので、いつも感謝の気持ちを持つことができるようになりました。僕は動物が好きで獣医学の道に進みましたが、命を扱う仕事を志すものとして、この気持ちはずっと持ち続けていきたいです。

C.M さん：「一日の苦勞は、その一日だけで十分である」という聖書の言葉があります。必要以上に悩まずおおらかな気持ちでいることの大切さを学び、受験勉強など自分が追い詰められそうなときにはとても大きな心の支えになりました。卒業してみて、週2回の朝の礼拝が自分にとってどれだけ大きな存在だったか、改めて気づかされています。

T.M 君：僕も礼拝では聖書の言葉を通して多くのことを学びました。特に心に残っているのは「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。全てのことについて感謝しなさい」という言葉です。自分にとって不利な状況があったとしても、考え方を少し変えれば、その状況は自分を成長させる絶好の機会かもしれない。そうやって全てのことを謙虚に受け止め、その中で自分を成長させようと素直に思えるようになりました。

部活動を通して、一つの目標に向かって全員で協力し合うことの大変さと大切さを学んだ

--- 部活動は何をやっていましたか？またそこからどのようなことを学びましたか？

T.M 君：硬式テニス部で部長をしていました。部活動全体では、みんなで一つの目標に向かって団結し、協力し合うことを学びました。また部長としては、考え方の異なる様々な人に気配りをしながら一つにまとめる経験を通して、視野が広がりました。目標に向かって頑張る姿勢は、受験にも役立ったと思います。

C.M さん：私も硬式テニス部において、高2のときは女子部長を務めました。まずは挨拶など、先輩との関係を通して目上の人に対する態度や、たとえば部室をきれいにするなど、細かな気配りをするを学びました。また部長という役職を通して、人をまとめることの難しさや、自分の意見のみ主張するのではなく他の人の意見に耳を傾けることの大切さを学びました。

M.Y さん：私はオーケストラ部にいました。パートリーダーとして音をまとめることの大変さや、120人近い大規模な部活動だったので団体行動の難しさ、規律を守ることの大切さを学びました。そして人間関係において、接し方がいかに大切なものであるかを学びました。大人数でも、仕事や練習が大変でも、お互い気配りを忘れずに向き合うことで、良い関係を維持することができました。

Y.N 君：僕は中学校ではバレーボール部に所属していました。高校では大好きな生物の勉強に専念することにしました。でも、一つの目標に向かって、試合に出る人も裏方を務める人も、一人ひとり協力し合ってそれぞれの役割をきちんと果たすことの大切さは、部活をとおして学ぶことができました。

予備校を凌駕するレベルの授業と、充実した補習や希望制講習によって入試に直結する学力を身につけられた

--- 勉強についてお尋ねします。

関東学院の学びはどのような点が良かったですか？ またそれは入試にどのように活かされましたか？

Y.N 君：理科の実験がたくさんあったのが良かったです。特に中学の頃は毎週のように何らかの実験をしていました。やはり自分で直接触れ、経験することで理科に対する興味が自然にわいたので、その後の受験勉強でも常に具体的なイメージを持って勉強することができました。

M.Y さん：小テストや補習などで基礎知識をしっかり定着させられたことと、特に休み期間中の希望制講習が充実していた点が良かったです。入試レベルの内容を学校で学んで、その後は図書館で自習できるのですが、先生がいてくださるので、わからないことがあればすぐに質問して、その場で解決できました。先生方もすごく熱心で、休みの日にも毎日出てきてくださったので本当に助かりました。先生方にはいくら感謝してもしきれない気持ちです。

T.M 君：先生方が一人ひとりによく目を配って教えてくださいました。全ての教科の先生が一人ひとりをしっかり見てくれ、成績が伸びると一緒に喜び、伸び悩むと一緒にどうしたら伸びるのか考え、アドバイスしてくださいました。それから教える内容のレベルの高さが素晴らしかったと思います。先生方は徹底的に受験の過去問を研究されていて、先生のオリジナルプリントを使って学ぶことで、予備校に負けないほど高いレベルの勉強ができました。

C.M さん：高校になると指導してくださる先生もある程度固定されるので、一人ひとりの得意不得意を把握して下さっていたのが心強かったです。どんな質問にも丁寧に答えてくださるし、また質問を積み重ねることで、自分がどのような点で迷いやすいのか把握して下さり、それに基づいて個別にアドバイスをしてくださったのがとても助かりました。授業も覚えるべき点をさらうだけでなく、時代背景なども含めてわかりやすく解説してくれるので、要点を有機的に理解でき、入試でも学んだことがそのまま活かされました。

--- 関東学院で学んだことを今後の人生にどのように活かしていきたいですか？それをふまえて今後の将来ビジョンを聞かせてください。

C.M さん：関東学院でたくさんの先生に支えてもらったおかげで今の私があるので、次の世代に恩返ししたいと思っています。なので今一番興味があるのは教育です。大学では小中高の教員免許を取るつもりです。また、人と直接関わることが好きなので、障害者福祉にも興味があります。



C.Mさん

M.Y さん：6年間「人になれ 奉仕せよ」という校訓のもとで学んできた中で、相手の目線に立って物事を捉える幅広い視野が与えられました。私は公務員を目指しているのですが、まさにパブリックサーバントとして、人と直接関わり、手助けをしたいと考えています。関東学院で学んだ、人と誠実に向き合う姿勢を大切にしていきたいです。

T.M 君：関東学院の校訓「人になれ 奉仕せよ」という言葉通り、自分の働きを通して、社会や人に仕えていきたいと思っています。化学は、自然の法則を活用して人の生活を豊かにできる学問です。将来は研究員になって、未知の分野について研究を進め、人々の生活を豊かにすることや、環境への負荷を減らすことに貢献できればと考えています。

Y.N 君：キリスト教の命を大切に考える方は、獣医学を学ぶものとして一生大事にしていきたいです。大学では子供の頃から好きだった牛や馬などについて獣医学の立場から学びを深め、それをそのまま仕事に活かしたいと考えています。具体的には行政獣医師と

いう立場で、産業動物（家畜）の保健衛生環境を良くしていきたいと思います。

最後に、関東学院を志す受験生に一言アドバイスをお願いします。

T.M君：単純に勉強のことだけを考えても、関東学院はとても質の高い指導をしていて高いモチベーションで学び続けられる学校です。さらに



T.M君

キリスト教の教えやクラブ活動を通して、人を思いやるのが自然に身につきます。ぜひ

関東学院の良さを知って入学して欲しいと思います。
M.Yさん：人とのつながりが深いのが関東学院の最大の魅力だと思います。大学での友達は一生ものだとよく言いますが、多感な時期を共に過ごした関東学院

中高の友達は、ある意味それ以上に大切な友達になります。
Y.N君：キリスト教の学校だからこそ学べるものがたくさんあります。聖書の言葉もたくさん学びますが、それら一つ一つが人生の指針になると思います。学力を伸ばして難関大学に合格するだけでなく、どのように人生を送っていくか、その心の土台を関東学院で作って欲しいと思います。

C.Mさん：いつ帰ってきても、在校当時勉強や部活を支えてくださった先生方が暖かく迎えてくださるので、心から「母校に帰ってきた」と実感できる場所です。また大学に来て改めて感じたのですが、関東学院でも羽目を外してふざけることはありましたが、みんなある程度限界をわきまえているというか、常識を逸脱するようなことはなかったと思います。在校生の質を考えても、とても良い学校だと思います。

**テーマが明確になった説明会で
卒業生が語った関東学院の魅力を実感**

卒業生の話を聞くと、一人ひとりの勉強に対する姿勢が非常に前向きで、目的を持って学び、大学に進んだという点と、われわれが考えていた以上に「人になれ奉仕せよ」というキリスト教に根ざした校訓がしっかりと心に根を張っているということが感じられた。

「成績中位のものが当たり前」に GMARCH クラスの

以上の大学に現役合格する」新カリキュラムは、大学合格実績の向上に確かな結果を生み出しており、それは関東学院の大きな魅力であることは間違いない。しかし、それ以上に、男女共学の環境や部活動、そして学校生活全ての土台にあるキリスト教の教えを通して、生徒たちは「サーバント・リーダー」として人に仕える姿勢を身につけている、このことこそ、学力同様に関東学院の魅力として上げられると考える。

今回の取材の総括として、校長の畠山先生にお話を伺った。

「今回取材に応じてくれた卒業生だけでなく、関東学院に遊びに来る卒業生は異口同音に『関東学院の卒業生と、他校出身の人との違いに驚く』といます。他校出身の人に比べると、関東学院の卒業生は常に自分の行動が周囲にどのような影響を与えるか考え、周囲との協調の中で自分を伸ばしていくことが自然にできているというのです。

中高6年という時間の中で、自分も他人も粗末にしないキリスト教の考え方が生徒にしっかり浸透していることは、とても嬉しいことです。共学という環境、また部活動などあらゆる機会を通して、性別や年齢、考え方など、自分とは違う個性とふれあい、認め合い、尊重しあうことが、他者のために生きることによって自分をも活かす『サーバント・リーダー』としての資質を伸ばすのです。

学校での学びを通して自分の力を伸ばすことは当然ですが、関東学院では力を伸ばし、他者を活かすことにその力を発揮できる人間を育てています。そもそも自分に力がなければ他者を助けることすらできません。新カリキュラムで6年間学んだ卒業生が確実に合格実績を伸ばしているのは事実ですが、そこだけに注目するのではなく、関東学院の生徒が成長していく過程を見て欲しいと願っています。

説明会は毎回テーマを変えています。部活動、全ての授業を見学できる授業参観、授業体験など、様々な面から関東学院のありのままの姿を見てください。」

◆学校説明会

説明会日時	テーマ	備考
9月12日(金) 9:30~12:00	関東学院の進路進学指導 学校説明と公開授業	要予約
9月23日(火・祝) 9:30~12:00	関東学院の授業体験 オープンキャンパス (説明会のみ参加の方)	要予約 予約不要
12月6日(土) ①9:30~11:00 ②13:30~15:00	入試説明会(勉強会同時開催)	要予約
1月12日(月・祝) 10:00~11:30	はじめての方へ6年生対象	要予約